第5回「国際食料安全保障会議 Food from Ukraine」
（2026年11月27日、於：キーウ）
茂木外務大臣書面メッセージ

日本国外務大臣の茂木敏充です。

ロシアによるウクライナ侵略が世界の食料安全保障に深刻な影響を与えている中、ゼレンスキー大統領によって立ち上げられた「Food from Ukraine」イニシアティブの下、世界の食料安全保障に尽力するウクライナ政府の努力に、改めて深く敬意を表します。

世界全体の食料安全保障、そして平和と安定に向けて、農業大国であるウクライナの復旧・復興が不可欠です。今も、ロシアによる港湾インフラや黒海を航行中の民間船舶への攻撃が激化し、ウクライナからの穀物輸出が大幅に減少しています。G7は一致して、黒海地域における民間船舶に対する攻撃を非難するとともに、食料サプライチェーンを守ることにコミットしています。我が国もこの方針に基づき、協力を継続していきます。

この観点から、私自身、シビハ外相と議論を重ねてきているほか、先月には、我が国からウクライナに派遣された食料・農業分野の官民ミッションが、ヴィソツキー農業政策・食料大臣を始めとする関係者との間で、今後の協力について議論を行いました。

また、黒海沿いの港湾からの穀物輸出の安全で確実な通航の確保も欠かせません。我が国は、国連食糧農業機関（FAO）を通じた輸出穀物の貯蔵庫支援に加え、世界食糧計画（WFP）を通じた穀物の輸出・配付支援等を行ってきています。
ウクライナを強力に支援する我が国の方針に、揺らぎはありません。

今後も、ウクライナの公正かつ永続的な平和の一日も早い実現と、ウクライナの食料・農業を含む復旧・復興への取組、そして穀物輸出の安全で確実な通航の確保を後押しすべく、引き続き国際社会と連携して、積極的な貢献を行っていきます。

（了）